

# 文化財だより

第27号

## もくじ

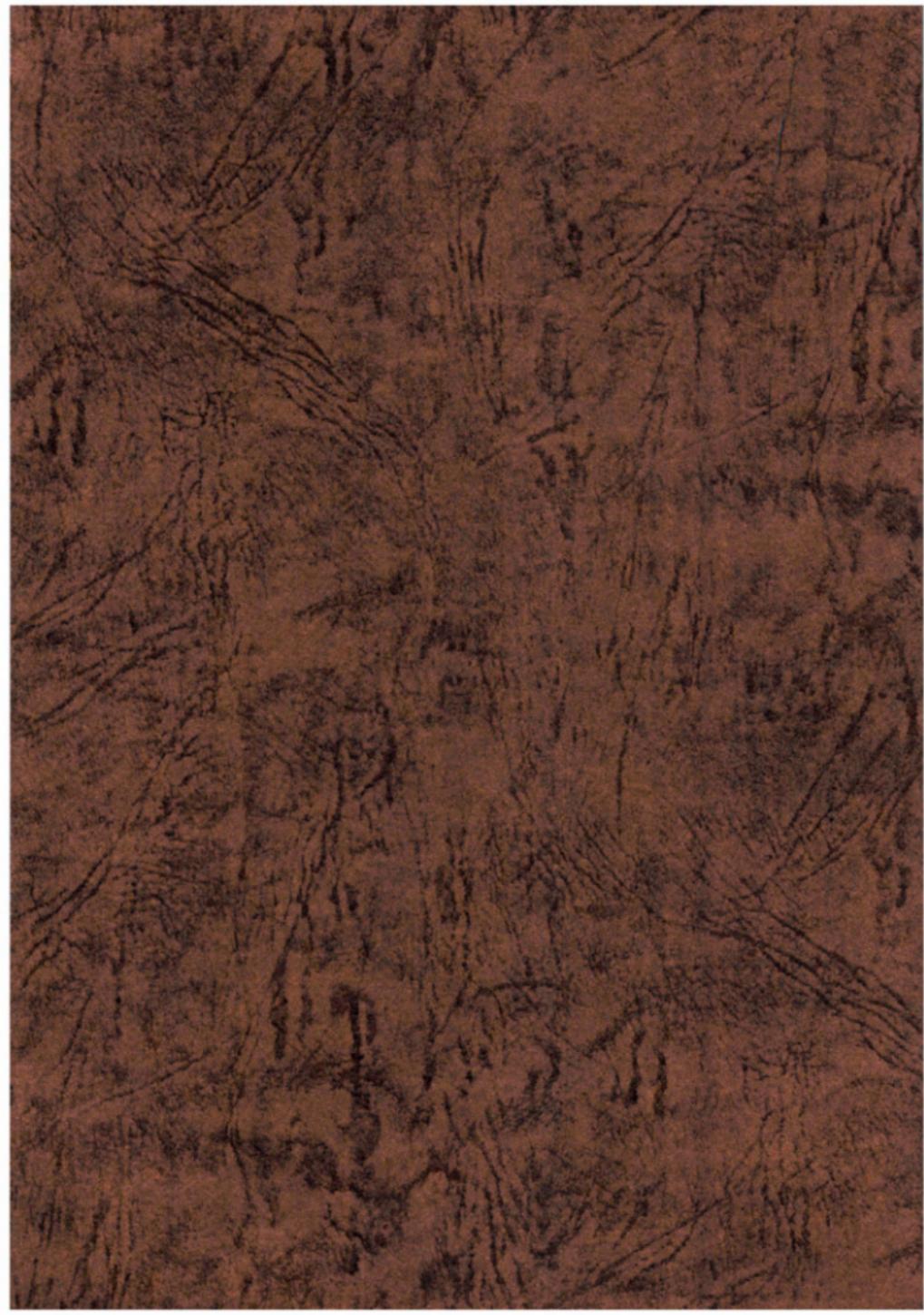
平成九年度 発掘調査報告	1
平成九年度 宮城県内遺跡調査成果発表会	9
平成九年度 特別展	9
平成九年度 文化財めぐり	10
第44回 文化財防火デー	11
文化財標柱・説明板設置事業	12
旧町名表示石柱設置事業	13

平成八年度 伝統的諸職調査報告

井内の石工

1

石巻市教育委員会



## 平成九年度

## 発掘調査報告

近年、大規模な開発等で消滅している遺跡が年々増加しています。石巻市でも開発や圃場整備などによって消滅する遺跡があります。

石巻市教育委員会では、これら開発等によつて破壊される恐れのある遺跡について、事前にどのような遺跡であるか確認するために発掘調査を行っています。

この確認調査で重要な遺跡であると判断された場合は、開発を行う側に計画変更や設計変更などをして、遺構の保存を行つてもらうようお願いしています。

しかし、このような計画変更等によつても、遺跡の保存がむずかしいときは、事前調査として本格的な発掘調査を行い、遺構や遺物などの図面や写真等をとつたりして、記録による保存を行います。

また、発掘の結果を後世に伝えるために発掘調査書を作成したり、現地で調査の内容を説明する現地説明会や石巻文化センターで企画展示などをを行い、市民の皆さんに、知つてもらうため、できる限りの公開に努めています。

平成九年度は市内五箇所で発掘調査が行いました。<sup>3)</sup>また、新金沼遺跡は建設省

の高規格道路「二陸縦貫自動車道」建設に伴い計画路線上の事前調査を行いました。

石巻市内中央部に位置する日和山にある石巻城跡と日和山神社経塚が日和山公園の市駐車場整備に伴う事前調査を行いました。

石巻市東部においては、市道の伊原津渡波一丁目線道路整備事業に伴う確認調査と渡波北部の土地区画整理事業に伴う確認調査が並塚貝塚と垂水開貝塚を対象に行われました。

それぞれの遺跡の発掘調査の内容については、この後詳しく報告しますが、これららの発掘調査によって、古墳時代の石巻地方と北や南との文化的交流の様子や中世石巻地方の城の状況など、これまで不明だったことが、最近の発掘調査によつて明らかになつてきました。



平成9年度 発掘調査地点位置図

1 新山崎遺跡  
2 新金沼遺跡  
3 石巻城跡  
4 日和山神社貝塚  
5 垂水貝塚  
6 並塚貝塚

# 平成九年度 新山崎遺跡発掘調査報告

## E-I 地点

### I 調査実施要綱

#### 【遺跡所在地】

石巻市蛇田字新山崎、三ツ口地内

#### 【調査対象面積】

約四〇〇〇m<sup>2</sup> (E-I 地点)

#### 【調査期間】

平成九年五月一日  
～十月三十一日

#### 【調査主体】

石巻市教育委員会

#### 【調査担当者】

石巻市教育委員会  
社会教育課 文化係主任主事  
木暮亮

#### 【調査参加者】

遺見清一	松野志矢子
森藤初弥	木暮亮
茂木秀夫	斎藤よし子
大場喜代	太田和賀子
石川弥生	小畠由記子
阿部利美	針生久美子
阿部真由美	橋本千代子
阿部	奈良・平安時代の遺構等については、溝と掘立柱建物跡がほとんどである。これは今回の調査区内で多く検出されており、調査区全体にわたり検出しており、F地点からは土器から土器が廃棄された状態で出土している。
五口	古墳時代前期の遺構、遺物に関しては、調査区全体にわたり検出されており、F地点からは土器から土器が廃棄された状態で出土している。
五口	その他の出土品としては、主に土器片が数点出土している。
五口	また、溝から木製品、土器なども出土している。

### II 調査の概要

#### 1 はじめに

新山崎遺跡は、石巻市街地から西に約5km、須江丘陵の東麓にできた浜堤上に位置している。平成8年度にA-I-D地点の発掘調査が行われており、古墳時代前期の方形周溝墓が三基と、その周溝から口縁部の一部に繩文を施した壺が出土し

#### 2 まとめ

今回の発掘調査では、まず、繩文時代の晩期と考えられる遺構があつたことがわかった。しかし、この頃、この地域はすでに生活の場

になっていたことが考えられる。しかし、遺構の性格等は不明である。

前回、方形周溝墓が見つかって以来、それに伴う古墳時代前期の集落跡の存在が予想されたが、堅穴住居跡等は検出されなかつた。しかし、土器の廃棄が行わ

れていたと考えられる遺構が検出されたこと、新たに考えられる遺構が検出されたこと、や、前回の調査で古墳時代前期の土器を汲む土器や、北海道の続縄文文化の土器が出土している。

また、新山崎遺跡から東に約2kmには新金治遺跡があり、古墳時代前期の集落跡が検出され、関東地方の文化の流れを汲む土器や、北海道の続縄文文化の土器が出土している。

二 調査の成果

今年度の調査地点からは、繩文時代の土器、土器、古墳時代前期の土器、廃棄された土器、奈良・平安時代の掘立柱跡のものと考えられる柱跡、溝跡等を検出した。

繩文時代の土器はI地点で浅く残つていたものを検出した。その中から、繩文時代晩期のものと考えられる土器片が、数点出土している。

古墳時代前期の遺構、遺物に関しては、調査区全体にわたり検出されており、F地点からは土器から土器が廃棄された状態で出土している。

また、溝から木製品、土器なども出土している。

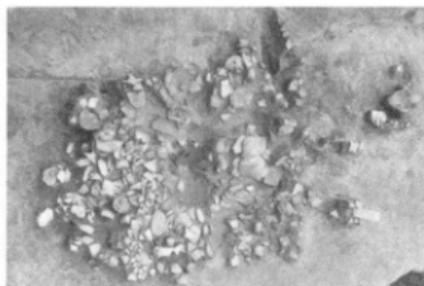
高杯と器台がそのほとんどであるので、何らかの祭祀に関わる遺構である可能性が考えられる。

また、関東地方の影響を持つと考えられる土器が含まれていることから、文化の伝播を知る手掛かりとなるものと考えられる。

奈良・平安時代の遺構として、掘立柱建物跡と考えられる柱跡や、溝跡が検出されているが、これらの覆土中から「灰白色大山灰」も検出されているので、およそ十世紀のものである可能性が高く、この頃に、新山崎遺跡のある地域に集落が営まれていた事が考えられる。



新山崎遺跡調査地点



F地点西側土坑遺物出土状況



E地点南側



F地点全景



H地点西側



G地点土坑遺物出土状況



I地点東端部



I地点中央部

平成九年度

# 新金沼遺跡発掘調査報告

## I 調査実施要綱

### 【遺跡所在地】 石巻市蛇田字新金沼

### 【調査対象遺跡】 約四〇〇m<sup>2</sup>

### 【調査期間】 平成九年六月一日から二月二十五日

### 【整理作業期間】 平成十年一月十二日から三月二十一日

### 【調査主体】 石巻市教育委員会

### 【調査担当者】 石巻市教育委員会 社会教育課文化係主査 文化係嘱託

### 【調査参加者】 相沢敏郎 嶋坂平蔵 速藤研矢 関千恵 加藤寿美子 腰又正男 柴田吉夫 齋藤初弥 齋藤よし子 菅田仁子 長谷川信雄 羽田昌江 鈴生久美子 松野志矢子 東北学院大考古学研究部 高橋義行 阪藤明子

墳時代から平安時代にかけての集落や生産遺構があつたと考えられている。

新金沼遺跡は、平成三年度から

平成五年度まで高規格道路へのアクセス

道路建設（県道）に伴う埋蔵文化財調査

を実施し、平成七年度から建設省東北地

方建設局の「三陸震災自動車道」建設工

事に伴う発掘調査を実施してきました。

平成三年度から五年度まで発掘調査

では、遺構・遺物などは見つかりません

でしたが、平成七年度からの発掘調査で

は、古墳時代前期（四世紀頃）の住居跡

や溝跡が見つかっています。

では、遺構・遺物などは見つかりません

でしたが、平成七年度からの発掘調査で

は、古墳時代前期（四世紀頃）の住居跡

や溝跡が見つかっています。

では、遺構・遺物などは見つかりません

でしたが、平成七年度からの発掘調査で

は、古墳時代前期（四世紀頃）の住居跡

や溝跡が見つかっています。

## III 発見された遺跡と遺物

### 【遺跡】 新金沼遺跡からは、分布調査等で古墳

### 時代前期・後期の土師器片や奈良・平安

### 時代の須恵器片等、時代不明の鉄滓など

### が見つかっていますが、これまでの発掘

### 調査で弥生時代の遺物と古墳時代前期の

### 住居跡十一軒、土塹（人為的に掘られた

### 六・七軒）や条などの遺構や弥生時

### 代の土器や石器、古墳時代前期の土師器

### 陶器などが見つかっています。

### 平成九年度の発掘調査では、古墳時代

### 前期の住居跡が十二軒、土塹が数基と平

### 安時代の溝跡が一条などの遺構や弥生時

### 代の土器や石器、古墳時代前期の土師器

### 陶器などが見つかっています。

### 平成九年度の発掘調査では、古墳時代

### 前期の住居跡が十二軒、土塹が数基と平

### 安時代の溝跡が一条などの遺構や弥生時

### 代の土器や石器、古墳時代前期の土師器

### 陶器などが見つかっています。

## IV 推測される特徴

### 【住居跡】 これまで新金沼遺跡からは十一軒の住

### 居跡が見つかっており、今年度の調査で

### もう一軒の住居跡が見つかり、合計して

### 一二二軒になりました。

### 住居跡の平面形は方形を呈しており、一

### 辺が約三m程の小型のものと一辺が約五

### m程の中型のもの、一辺が約六m以上の

### や大型のものに大きく分類されます。

### 住居の平面形は方形を呈しており、一

### 辺が約三m程の小型のものと一辺が約五

### m程の中型のもの、一辺が約六m以上の

### や大型のものに大きく分類されます。

### 住居の平面形は方形を呈しており、一

### 辺が約三m程の小型のものと一辺が約五

### m程の中型のもの、一辺が約六m以上の

### や大型のものに大きく分類されます。

### 住居の平面形は方形を呈しており、一

### 辺が約三m程の小型のものと一辺が約五

### m程の中型のもの、一辺が約六m以上の

## V まとめ

### 【遺物】 前年度までの調査で、弥生時代の土器

### や土製軸輪車・石鏡、古墳時代前期（塙

### 峯式）の土師器片や環・盤・甕・壺・

### 器台などが見つかっています。

### 今年度も弥生時代の土器や古墳時代前

### 期の土器が多数見つかりました。さらに

### 今年度は、住居跡内から北海道系の続繩

### 文土器（後C<sub>2</sub>・D式）一個体が出土し

### ました。この北海道系土器は県北で古墳

### 時代の墓跡等から見つかっていますが、

### この土器から新金沼遺跡は、北海

### 道や関東との交流があったと考えられま

### すが、土器や文化伝播ルートがまだ明

### 確には判明していません。北から文化

### の流入は、北上川沿いに続繩文土器の出

### 土している遺跡がみられるところから北上

### 川のルートが考えられます。南からは、

### 福島市や会津若松市などを経由する内陸

### のルートと関東から海路で北上するル

## VI 考え方

### 【遺跡】 遺跡は、付近の畠などの耕地を

### 分布調査した際に、土器片（土師器・須

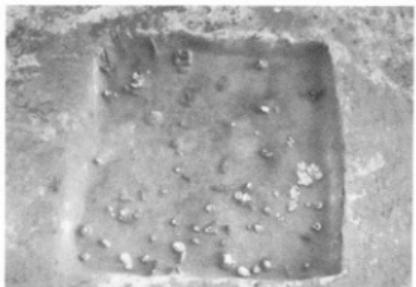
### 器）や鉄滓などが発見されており、古



▲平成9年度発掘調査地点全景



▲新金沼遺跡上空から須江丘陵を望む



▲第18号住居跡



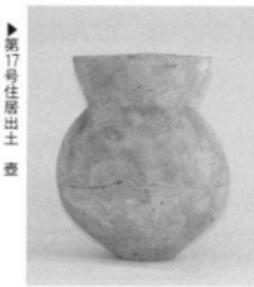
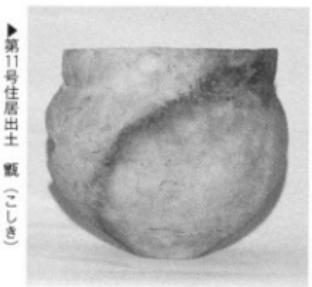
▲第11号住居跡



▲第18号住居遺物出土状況



▲縄文が施された土器（11号住）

▶第17号住居出土  
壺▶第11号住居出土  
壺（こしき）▶縄文土器  
(北海道系土器・15号住)

平成九年度

## 石巻城跡等発掘調査報告

### I 調査実施要綱

#### 【調査所在地】

石巻市日和が丘二丁目他

#### 【調査対象面積】

約一二〇〇m<sup>2</sup>

#### 【調査期間】

平成九年十一月二二十五日  
（三月三十一日）

#### 【調査主体】

石巻市教育委員会

#### 【調査担当者】

石巻市教育委員会  
社会教育課文化係主任主事

#### 【調査参加者】

木暮亮

#### 【調査協力】

斎藤よし子

造見清二  
斎藤初弓  
鹿島御兒神社  
石巻市シルバーパートナーセンター

### II 調査の概要

#### 1 はじめに

石巻城跡は、JR石巻駅から北上川の西側にある丘陵の頂上部付近に位置している。昭和五十八年に鹿島御兒神社西側の公園内では発掘調査が行われ、掘立柱建物跡が五棟検出されている。また、日和山神社經塚は、高さ一・五メートルの塚状の盛り上がりが、鹿島御兒神社の北側にあるた

#### 2 調査の結果

調査の結果、調査区の北面に堀の跡が確認された。（写真参照）この堀は幅約四・五メートル、深さが三メートル程度あり断面がV字形をしており、「堀研堀」といわれる形態のものである。また、水がたまっていた痕跡が見られないこと等から、この堀は空堀と考えられる。

#### 3 まとめ

今回の発掘調査によって鹿島御兒神社

は、経験を納めるための埋経遺構が見当たらぬことや、土の積み方で版築といわれれる方法であることから、この空堀に付随する土器であり、後世に、何らの要因で塹状に残されたものであることが推測される。

また、この土器は、現在の残存状況などから、空堀に沿うように構築されていたと考えられる。

今回の調査で、遺物は発見されなかつたため、これらの造構の時期ははつきりしない。

近世ごろにかけての経塚と考えられていた。

の北側に土器と空堀を確認した。

これらの遺構は、堀研堀と呼ばれる形態や、土器を伴うことから、城館にかかるものであると考えられ、その位置から、中心施設に近い部分の遺構であることが推定される。

しかし、遺物が出土していないことから、この遺構の年代は、大きく中世と捉えられるが、詳しい年代は分かっていない。

また、古くから葛西氏の居城が石巻城であると言われているが、今回の調査ではその確証を得ることはできなかった。



完掘状況（調査区西側）



空堀検出状況



土壌断面

平成九年年度

## 垂塚・垂水圓貝塚発掘調査報告

I 調査実施要綱  
【調査所在地】 石巻市渡波字旭が浦、渡波字原他

【調査対象面積】 約六〇〇〇m<sup>2</sup>

【調査期間】 平成九年八月一十五日

～十一月二十七日

【調査主体】 石巻市教育委員会

【調査担当者】 石巻市教育委員会  
社会教育課文化係主事 阿部 篤

【調査参加者】 鹿部 和夫 木村 みね子  
西條 芳子 高野 真由美  
高橋 良海

II 調査の概要  
一はじめに

垂塚貝塚は、古墳時代から近世頃にかけて形成され、東西約1km、南北約500mにおよぶ巨塚であると考えられている。過去の調査ではいづれも遺構等は発見されず、正確な範囲などは分かっていない。

垂水圓貝塚は、平成四年度に調査が行われ、縄文土器の破片、溝状遺構等が発見された。また遺路の西側、山の麓には通称「ボラ穴」があり、そこから戰手刀

が発見されている。

### 二 垂塚・垂水圓貝塚の位置と環境

垂塚貝塚は、JR渡波駅から北に五〇〇mに位置している。このあたりは、浜堤といわれる、周りより若干標高が高い土地である。また、垂水圓貝塚もJR石浦駅から西に約五〇〇m程の山の麓の周りより標高が高いところに位置している。このことは、生活するには、水はけのよい高いところが選ばれたと考えられる。

今回の調査で、頭部は欠いていたものの、ほぼ一分体と推定されるマグロの骨が出土した。この骨の一部に刃物による切痕があったことや、周囲のマグロの骨が三つ程の単位でまとめて出土していることから、この場所でマグロの解体が行われていた可能性が考えられる。

また、調査区の最下層から、溝状遺構が検出され、それとほぼ同じ面から平安時代頃に降下したと考えられる火山灰が見つかっており、平安時代頃のものと考えられる土器類、須恵器が破片で出土している。

垂水圓貝塚は、平成四年度の調査で溝や若干の遺物が出土しているが、今回は

その結果、垂塚貝塚では調査地区の中面となり、遺構、遺物は全く発見できなかつた。

その目的として調査を行った。

今回の調査では、遺構、遺物等は検出できなかつた。しかし、過去に戦手刀が出土しており、貝層の存在があつたと伝えられていることから、調査区外に遺構等が残存している可能性がある。

### (2) 垂水圓貝塚

今回の調査では、遺構、遺物等は検出できなかつた。しかし、過去に戦手刀が出土しており、貝層の存在があつたと伝えられていることから、調査区外に遺構等が残存している可能性がある。

その結果、垂塚貝塚では調査地区の中央部、高まりの部分でアサリを主体とした貝層が検出された。

この貝層は深さが約一㍍程あり、アサ

リの貝殻が含まれる割合が圧倒的に多く、

### (1) 垂塚貝塚

遺構が確認できた範囲は遺跡のほぼ中央部、丘状に高まっている地点周辺であり、最下層から灰白色火成灰と推定される白色土層が検出されていることから、平安時代、十世紀頃にはこの地域で人々の生活が始まったと考えられる。

また、貝層の形成が始まるのは、古銭が貝層の下のほうから出土しているの

で十四世紀頃と推定され、これは、江戸時代には終了していたと考えられる。

マグロの骨は、その加工痕跡や遺物か

ら、ここでマグロの加工が行われていた

ことが推定される。また、アサリについ

てもその数の多さから、加工の可能性が

考えられる。

古銭については、いわゆる「びた錢」

であり何らかの加工が行われているもの

がほとんどである。これらが、錢貨とし

て使用されたのか、他の用法があつたの

か、検討が必要である。



葦塚・垂水貝塚位置図



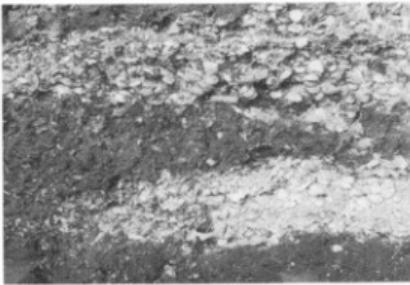
旧耕作面の検出状況



貝層の堆積状況



垂水貝塚地山検出状況



貝層中の加工された鹿角

平成九年度

## 宮城県内遺跡調査成果発表会

平成九年度 特別展  
「土器は語る。～石巻地方古墳時代の黎明期～」

【日時】平成九年十二月十二日(土)

【主催】宮城県史跡整備市町村協議会

【会場】石巻文化センター

【担当】石巻市教育委員会

社会教育課 文化係

【発表遺跡】

里浜貝塚(鳴瀬町)、矢越遺跡(白石市)、山王園遺跡(一迫町)、大塚森古墳(東北学院大学考古学ゼミ)

新金沼遺跡(石巻市)、大山遺跡、大野田遺跡(仙台市)、大古町北遺跡(丸森町)、駒米遺跡、一里塚遺跡(宮城県文化財保護課)、熊谷館跡(富谷町)、多賀城跡(県多賀城跡研究所)

宮城県内遺跡調査成果発表会は、宮城県における遺跡の調査成果を発表・資料報告することによって、県内の文化財調査についての最新の情報を交換し、さらに文化財調査の技術等の向上を図ること

とを目的に毎年行われており、今年度は石巻文化センター(毎回会場は変更)を

会場に石巻市教育委員会が担当しました。

成果発表した遺跡は、前述したとおり、縄文時代の里浜貝塚、矢越遺跡、弥生時代の山王園遺跡、古墳時代は石巻市の新

金沼遺跡や原遺跡、奈良・平安時代の都山遺跡・多賀城跡、中世の熊谷館跡など

の十三遺跡です。当日は資料やスライドなどを用いて発掘担当者から説明があり、考古学者や一般市民が約百八十名の参加がありました。

また、資料報告のみの遺跡が八遺跡ありました。

【開催会場】

石巻文化センター 二階企画展示室

【主 催】

石巻市教育委員会

【展示資料】

新金沼遺跡・新山崎遺跡・鹿島貝塚、田道町遺跡(石巻市)、闇の入遺跡、

練塚遺跡(河南町)、赤井遺跡(矢本町)、愛鳥東部丘陵遺跡群五郎市地区

(名取市)、山前遺跡(小平田町)、大橋遺跡(鹿島町)、鶴ノ丸遺跡(志波姫町)等二千遺跡

古墳時代前期(墳墓式期)の遺構・遺物の出土例が増加しています。

これまでの発掘調査成果によれば、これ

まで不明だった石巻地方の古墳時代の状況がだんだん明らかになりつつあります。当初考えられていたよりも早い段階に、古墳時代前期の文化が石巻地方に流入していきました。

これらの成果をもとに、「これまで県内

で出土した同時期の土器と比較しながら、石巻地方の古墳時代前期の様相を探ることを目的としてこの特別展を開催しました。

展示内容は、県内の古墳時代前期の土

と比較できるように展示了しました。

また、石巻市北西部にある新山崎遺跡と新金沼遺跡からは、他地域との交流があつたことを示す土器が出土しており、文化交流のコ-ナ-を設けて展示了しました。

新山崎遺跡からは、方形周溝墓が見つかっており、出土土器の中には関東地方で見られる東海系土器がありました。

新金沼遺跡からも東海系土器が出土しましたが、そのほかに北海道系土器も出土しており、文化的な交流を探るうえで新

金沼遺跡は重要な遺跡です。

特別展期間中の十二日間で約四百名の入館者がありました。



## 平成九年度

### 文化財めぐり

平成九年度の文化財めぐりは、第一回・第二回を岩手県遠野市、第三回を上山・山形方面、第四回を牡鹿三十三所めぐりという内容で実施しました。

#### 第一・二回 遠野市の文化財をたずねて

期日 第一回 五月二十五日

第二回 九月二十一日

講師 石垣宏 石巻市文化財保護委員

参加者 四十三名

第一回 四十三名

午前八時三十分に市役所前を出発し、東北自動車道、山形自動車道を通り、ま

ず斎藤茂吉記念館に行きました。斎藤茂吉は、上山市出身のアラギ派の歌人、医者です。守谷伝右衛門の三男として生

まれました。明治三十九年、伊藤左千夫に師事し、アラギ派の歌人として活躍

し、近代短歌に新風をもたらしました。

橋下宿のこんにゃく番所でこんにゃく

餅の昼食を取り、山形城に向かいまし

た。山形城は、畠上氏の居城で、現在東

大手門が復元されています。仙台城とは違ひ、平地に作られた「平城」といわれる城で、周囲を堀と石垣で囲む形で作られています。

カツバ園では、今に残る昔話の世界を垣間見ることができました。また、伝承團は国指定重要文化財の南曲がり屋、菊池家をはじめ、遠野に残る民家、柳田

園男に民話を教えた佐々木喜善記念館などを見学しました。

最後に見学した子葉家は、日本十大大名家に挙げられた南部曲がり屋で、その大きさに圧倒されました。

#### 第四回 牡鹿三十三所めぐりパート2

期日 十月十一日

講師 佐藤雄 石巻市文化財保護委員

参加者 三十名

#### 第三回 山形・上山の文化財をたずねて

期日 十月五日

講師 石垣宏 石巻市文化財保護委員

参加者 四十三名

お寺ですが、そこには石巻の歴史と深く関わりのある人の墓や、目立たないので

すけれど、いわゆるある石仏などがあり歴史の裏の深さとともに、普段何気なく目にしているものもそれぞれ歴史のあるものだと感心させられました。

文化財めぐりには、例年通り、非常に多くの方々からご応募をいたいでおりましたが、残念ながら参加できなかつた方々が多數ございましたことを深くお詫び申し上げます。



▲第1・2回文化財めぐり とおの昔話村



▲第3回文化財めぐり 橋下宿



▲第1・2回文化財めぐり 伝承園

牡鹿三十三所めぐりは、今回で二回目となります。前回は羽黒町、住吉町周辺をまわりましたが、今回は蛇田、門脇周辺の三十三所札所、東雲寺、普賢寺、瀬波寺、西光寺、新法寺、福昌寺を見学しました。

日頃、改めて行くことの少ない市内の

お寺ですが、そこには石巻の歴史と深く

関わっている人の墓や、目立たないので

すけれど、いわゆるある石仏などがあり歴史の裏の深さとともに、普段何気なく

目にしているものでもそれぞれ歴史のあるものだと感心させられました。

文化財めぐりには、例年通り、非常に多くの方々からご応募をいたいでおりましたが、残念ながら参加できなかつた方々が多數ございましたことを深くお詫び申し上げます。



▲第4回文化財めぐり 西光寺



▲第3回文化財めぐり 檜下宿

火災で文化財防火デーを実施しました。これは、昭和二十四年一月二十六日、奈良の法隆寺金堂が火炎に遭い、貴重な壁画が焼損したこときっかけとして行われるもので、国民ひとりひとりに、文化財の大切さ、その愛護の心を再認識してもらうことを主眼として、全国各地で文化財の防火訓練が行われます。

石巻市でも、この趣旨を尊重し、毎年市指定文化財と、その所有者、また、その地域の方々を対象として、文化財の防火訓練を実施しています。

今回、訓練を実施した龍泉院は、寺伝によると、天文年間（一五三三～一五五五）に龜山伊勢という郷士が、東光山安樂寺が戦乱で薙れ果て、廢寺同様になつていることを嘆き、天保乾清に寺院の建物を寄進し、開山されたと伝えられています。

また、境内には、市指定文化財「龍泉院のイチヨウ」があります。これは、市内でも「番目に大きい木」で、高さ約二十二メートル、枝張りは、東西約二十一メートル、南北約二千五百メートルあります。

訓練は午前九時四十五分、本堂祭壇から出火し、初期消火に失敗、所蔵の文化財に延焼の恐れがある、との想定で始まりました。

一九番報から、文化財の搬出、消

去る、一月二十六日、市内水沼の龍泉院で文化財防火デーを実施しました。

これは、昭和二十四年一月二十六日、

奈良の法隆寺金堂が火炎に遭い、貴重な

壁画が焼損したこときっかけとして行

われるもので、国民ひとりひとりに、文

化財の大切さ、その愛護の心を再認識し

てもらうことを主眼として、全国各地で

文化財の防火訓練が行われます。

石巻市でも、この趣旨を尊重し、毎年

市指定文化財と、その所有者、また、そ

の地域の方々を対象として、文化財の防火

訓練を実施しています。

今回、訓練を実施した龍泉院は、寺伝

によると、天文年間（一五三三～一五五

五）に龜山伊勢という郷士が、東光山

安樂寺が戦乱で薙れ果て、廢寺同様にな

つていることを嘆き、天保乾清に寺院の

建物を寄進し、開山されたと伝えられて

います。

また、境内には、市指定文化財「龍泉

院のイチヨウ」があります。これは、市

内でも「番目に大きい木」で、高さ約二十二

メートル、枝張りは、東西約二十一メー

トル、南北約二千五百メートルあります。

訓練は午前九時四十五分、本堂祭壇か

ら出火し、初期消火に失敗、所蔵の文化

財に延焼の恐れがある、との想定で始ま

りました。

一九番報から、文化財の搬出、消

火訓練と行われました。今回は、放水の



▲文化財搬出訓練



▲初期消火訓練



▲消防署放水訓練

## 第44回 文化財防火デー

## 文化財標柱・説明板設置事業

### 文化財を大切にしましよう

【説明板】

(千石町 横張神社内に設置)

石巻市内には、国指定文化財が二件、市指定文化財が二件あります。そのほかに約百ヶ所の周知の埋蔵文化財藏地（遺跡）があります。

石巻市教育委員会では、こうした文化財が存在することを市民のみなさんにお知らせするために、標柱や説明板を設置する事業をすすめています。これら文化財として指定もしくは登録されている物や土地は、全人類共通の財産です。したがって、こうした文化財の現状を変更しようとするときは、法律や条例にもとづく届出が必要です。特に周知の埋蔵文化財藏地（遺跡）で、土木工事や住宅建設等を計画したときは、できるだけ早い段階で石巻市教育委員会に相談してください。

わった財産を子孫に継承することばかりでなく、私達の世代の文化を子孫に伝えて行くことを意味しています。ですから、祖先の利益にとらわれることなく、広い視野を持ち将来のことを十分に考えて、文化財の保護・保存と開発を両立させて行かなければならぬのです。

平成九年度は、文化財の説明板を一本、標柱を五本設置しました。設置にあたりご協力をいただいた関係各位に、お礼申しあげます。

【横張神社と川村孫兵衛重吉】

した孫兵衛は住居を菩提寺にすることを決めましたが、願いかねず没しました。今は、遺言どおり真言宗大鉤山龍觀院書誓字が建てられ、孫兵衛は妻や彼の子孫とともに葬られています。

(千石町 横張神社内に設置)

### 【標柱】 平形山根貝塚 (建て替え)

標高約一〇七㍍の東稜斜面に存在するこの貝塚は、アサリを主としたもので、一箇所の小貝塚が認められる。古代における本地域の環境と人々の生活を知る上で貴重である。

(沢田字平形山根 遺跡内に設置)



【延喜式内社 曽波神社 (新設)】

平安時代の延喜式神名帳に記載されている神社を式内社という。石巻地方では十社記載され、これらは「牡鹿十座」といわれている。この神社はその中の一社である。祭神は志波彦尊である。

(蛇田字刈場 曽波神社に設置)



## 祝田浜常夜燈（新設）



長谷寺大悲閣（観音堂）

祝田浜の堤田兼主ら五人が中心となり、文化十年（一八二三）に建てたもので、金華山までの海の里程が刻まれている。この辺りは金華山道の渡し場であり、金華山参詣関係の資料として貴重なものである。

（渡波字祝田浜 常夜燈前に設置）

## 恩賜燈（新設）



北上川河口は昔から通航が多く、江戸時代には「津方番所」、明治時代には「石巻救難所」がつくられた。

「恩賜燈」は帝國水難救助会が「恩賜燈募金」によって全国の救難所に建てた燈台の一つであり、このものは昭和九年に建てられたものである。

（雲雀野町一丁目 恩賜燈前に設置）

## 旧町名表示石柱設置事業

由緒ある町名を後世に

三二の「伊達政宗顕地黒印状」で初めて見られるようになります。

（日和が丘 丁目）

海門寺公園内に設置



長谷寺大悲閣（観音堂）（新設）

この観音堂には室町時代の作と考えられる十一面觀音立像が本尊として安置されている。これは、源義経が除隊のとき戦勝祈願をしたと伝えられているものである。

（真野字笠原 長谷寺内に設置）

## 村境

この地域は、旧石巻村と旧門脇村両村の境に当たる場所であり、村の境がそのまま地名としての「村境」となった例であるといえる。

「いしのまき」の名は慶長五年（一六〇〇）の「かさいおわさきとめの日記」で文献上に初めて見られ、また「かどのわき」の名については、寛永八年（一六

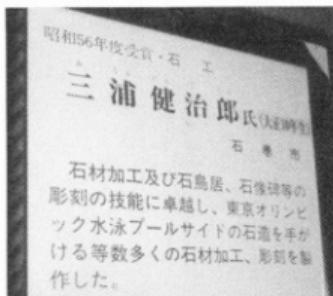
二年）に伝わるため、古い町名とその由来を石に刻んで建立する事業を、昭和五十六年度から行っています。平成九年度は、一本の石柱を設置しました。

設置にご協力いただいた関係各位へ、厚くお礼申し上げます。





・鍛錬を刻む石工三浦健治郎



・技能賞受賞（宮城県 昭56）



・技能研究会で鳥居製作について教授（戦後、石巻高等技術専門校にて）

・仙台石材株式会社  
假株券

## 亀井久兵衛氏所蔵文書



1 家相方位図（天保15仲秋中旬）  
注：15の写真拡大

2 沢石弁用相成事に付添書（明治九年）  
附義定証（明10）

（「吉田郡佐原村大字川原字川原」）

東北の事は、今、河内守の御用事で、西の事は、

北の事は、今、河内守の御用事で、南の事は、

西の事は、今、河内守の御用事で、北の事は、

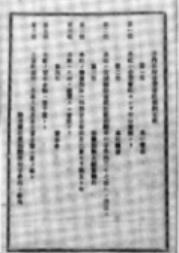
北の事は、今、河内守の御用事で、西の事は、

北の事は、今、河内守の御用事で、東の事は、

北の事は、今、河内守の御用事で、西の事は、

3 錫札願 明治12年

4 井内石材合資会社契約款  
(明治27年)





・印半纏



・天王様移転之記



・山神



・己待供養塔



・牛頭天王

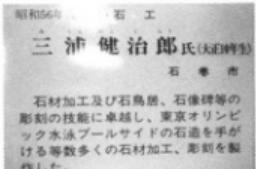
8	衣 食 住 生 活	年 中 行 事・生 产 历	信 仰 儀 礼・禁 忌 伝 承
職 人 の 生 活	<p>●衣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事衣は細工部屋ではキジロのボタンのついたシャツ、ハラカケ、ハッピ。下衣は締のモモシキ、乗馬ズボン。足は紺の足袋に草履。山取りの時は地下足袋。奉公人（弟子）は上衣はシャツ・ハッピ。下衣はモモシキ、足は萬草履。頭は職人も弟子も手拭をウシリシボリにした。</li> <li>・工場で作業中は素通しの眼鏡をかける。福井の行商人から買う。</li> <li>・お正月には印半纏、手拭、草履、下駄をもらい、石巻の街にそれを着て遊びに行く。</li> </ul> <p>●住</p> <p>山元（ダンナ）は広い屋敷に住み職人の8割は借家に住んでいた。奉公人（弟子）は物置きの道具部屋とか細工部屋の上の二階にねた。</p> <p>●食と生活（職人）</p> <p>力わざなので給料の3割りは酒代。決して豊かな生活ではなかった。日給1円50銭。月2・30円、子供多し。（昭和初め）</p> <p>・奉公人は板間の台所で食べ山元（ダンナドノ）は骨の上で食べた。</p>	<p>・正月元旦、元朝踏り、牧山・日和・山の神（石屋の神様で、本山（元山）の下、岩磐のある所にあった）</p> <p>・正月2日「切りそめ」早朝ふいごで火をおこし道具をつくり、山の神に行ってノミと手鏡で石を切るまねをする。職人の仕事はじめである。</p> <p>・正月12日、獅子振り、山の神の日</p> <p>・2月12日、山の神の祭り、山の神（石碑）に鐵を立て、餅ついて食べて休む。奉公人は小遣いをもらう。</p> <p>・6月14・15日 天王さん（カッパ祭り）</p> <p>・8月15日 八幡神社の祭り</p> <p>・10月12日 山の神の日</p> <p>・10月20日 えびす講</p> <p>・11月23日 ふえご祭りの日 (休み日ではない)</p> <p>※注…1日と15日は休み日 暦は旧暦 ・契約講 　大瓜井内…神風講 　井内井内…秋葉講 　→明治講</p>	<p>●各神社と縁日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡神社（旧8月15日）</li> <li>・山の神（旧2月12日・10月12日）</li> <li>・淡島さん（（女神）上井内にある）</li> <li>・五十鈴さん（古屋敷。駅の近くの部落の山にある）</li> <li>・明神さま（旧9月9日、「たきの口」駅の北にある）</li> <li>・おたつあん（ふみきりの近く）</li> <li>・八雲神社（天王さん）（旧6月15日）</li> </ul> <p>奉山の神は八幡様へ合祀（戦中）碑は現在水門の南の北上川岸にある</p> <p>●禁忌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産火は死火よりきらう（危険な山仕事をだから）</li> <li>・「フイゴのまわりに草履をおくな」</li> </ul>
	符 丁・教 え 方 な ど	仕 事 歌	
	<p>・石の前面…「手上げ」</p> <p>石の上面…「ツラ」</p> <p>石の下面…「スワリ」</p> <p>石の目…「窓」</p> <p>テコの支点…「マクラ」</p> <p>コロの入った時…「コロを喰ったか」と言う</p>	<p>・仕事歌はないがかけ声がある</p> <p>・石をカグラサンで巻き上げる時 「ヨイトマケー、ソレマケー」</p> <p>・大きな石を横に出す時 「ヨイト、ヨッコー」</p> <p>・前に出す時 「ヨイト、ナガサー」</p> <p>・一齊に引く時、テコを複数で使う場合 「ヨイト、コラショー」</p> <p>・石を2人、4人、6人など「きしあつぎ」し運搬する時「ソレサア、ヤーサー」とかけ声をかける。</p>	

話者…宮本慶吾（75才）  
三浦健治郎（70才）

職業	技術修得過程	職能分担過程	同業者の組織
人 の 職 能 ・ 組 織	<p>●年季奉公 奉公人は口べらしのために主に他の地域（漁村、栗原、佐沼、南郷、岩手など）から奉公にきた。</p> <p>1) 小学校卒業（13才）から徴兵検査（21才）まで奉公し、弟子上がりし一人前の職人になるとダンナから石工道具一式をもらう。</p> <p>2) 弟子あがりしてから1年間、親方にお札奉公する職人もいた。</p> <p>●技術修得 1) 山元（ダンナドノ）は教えるために弟子（奉公人）をつれてきたのでなく、利益を得るためにつれてきたのであるから、弟子は職人（先生）の技術を盗んで覚えるしかなかった。</p> <p>2) お昼休み時間に山のお墓に行つて、墓のつくり方にについて見て覚えた。また酒飲み仲間たちが石切りについて話しているのを聞いて覚えた。</p> <p>3) 技能のすぐれた職人のいる所は弟子もよい技術を身につける。出職（長手間取り）してうでを磨く。「遍歴は職人の大学である」。</p> <p>4) 弟子は2~3年で石を切れるようになる。しかし手筋のよい上台の蓮華などを彫る職人は10人中1人か2人である。</p>	<p>●石屋における1日の職能分担作業 1) 毎朝（夏）5時起床、新弟子が朝食前に井戸から飲み水と焼入れ用の水をくみ、コーケスのもえかすをとり、薪に火づけてコークスをもやす（「火造り」）</p> <p>2) 兄弟子（2・3年奉公した弟子）が起きて、すりへったノミの刃先を焼いて叩いて叩いて、水に挿入して焼入れをして道具をつくる（「焼入れ」）</p> <p>3) 6時30分朝食</p> <p>4) 8時仕事開始…一番上の兄弟子（4年位~5年）が日（今日）の仕事の段取りをする。山取り（採石）に行く者、細工部屋で加工する者などを割当て作業にかかる。</p> <p>5) 午後7時日没まで仕事をする（夏季）</p> <p>●大きな職能分担            ①加工（石工）職人（山取り職人）            ②石積み職人（石垣を専門に積む）            （賃金は②は①より5割り増し、干潮時のみ仕事をするので石積みが夜になる場合もある）（瀬戸内工事）</p> <p>●墓石加工の分担            ①石工（石切り職人、彫り職人）            ②字ぼり職人            ③みがき職人（主として女性）            注…1人で①②をかねる名人もいる</p> <p>●職人の階階            1等・2等・3等とあり3等は不景気の時は仕事がない。</p>	<p>●同業組合の変遷 1) 戦前            - 明治33年、福井石材所同業組合（山元中心）            - 明治39年、福井石材商同業組合</p> <p>2) 戦時中            - 昭和16年、産業報国会、石材価格調整委員会、同業組合を解散し、宮城工業組合に加盟し、石巻、牡鹿支部になり、福井石材業産報会結成</p> <p>3) 戦後            - 昭和24年、福井石材商工業協同組合結成            - 昭和30年頃、福井石材労働組合自然消滅</p>



昭和16年頃の三浦健治郎氏



昭和56年三浦健治郎氏



昭和56年芸術文化功劳表彰

著者…三浦健治郎 (76才)・宮本慶吾





・玄関ふみ石台（井内）



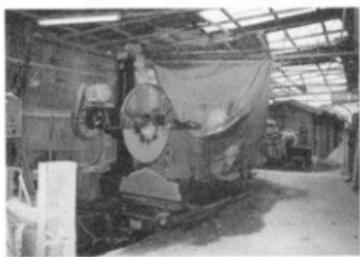
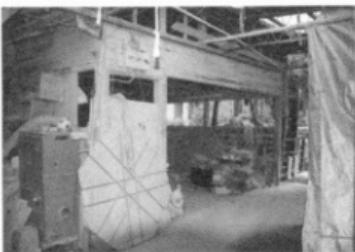
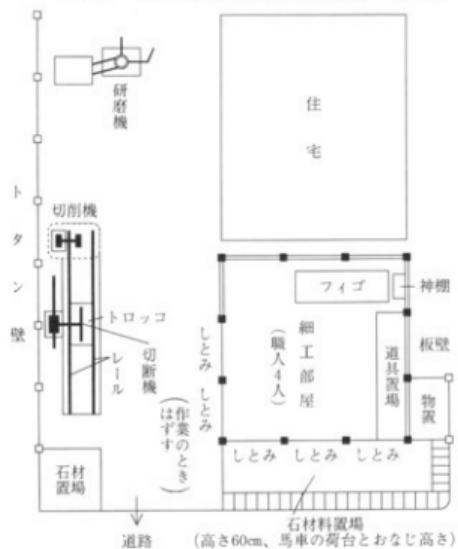
・戸ヅクロのつか石（井内）



・北上川の石垣

6	種類	名称	用途	年間総生産量	収納保管、商圏、販売方法、決済方法など					
	記念碑		碑石材	5,940t 18,900,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石材生産うつりかわり</li> <li>明治 昭和17年 昭和20年 26年</li> <li>上昇安定期(横ばい期)、低下期(</li> </ul>					
	墓石		建築用材	495t 2,870,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治10年代の北上運河・野蒜港突堤</li> <li>・東名運河等に使われた膨大かつ巨大な石材は本(元)山から掘出され、川岸から30t(とん)から70t(とん)の轆(平田船)などに積込まれ、日に5・60艘、北上川から石井閘門を通って運ばれたといわれている。</li> </ul>					
井内石(稲井石)製品	橋石		橋石材	60t 1,720,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>また北上川、川口防波堤工事(東、西突堤工事…大正7年から始まり仕上げ工事、昭和7年~8年)など内務省の建設時には莫大な利益を得た。山元(山持ち)は「一日、10尺ほれば馬鹿でも生きていける」と言ったそうだ。(注…『陸前野蒜港記』片平六左著、『石巻の大正昭和』石巻日新聞社参考)</li> </ul>					
	敷石		石碑製品	2,520t 35,280,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治40年頃の井内石の年産額は50余万才(此価格、加工費共で13万円)を算し、百余戸の部落民を率げて採石加工に従事(『稲井町史』)</li> </ul>					
	鳥居		割石	16,200t 16,200,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有力山元(山持ち)や「おろしもど」(問屋)によって記念碑は日清戦争~第二次大戦~戦後を通じて全國に出荷され戦前は横浜まで商圏を拡大した。</li> </ul>					
	土台石		碑石	5,220t 14,850,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大正中期以降、耕地整理のため既に大量の橋石が使われた。昭和3・4年頃運河を利用し仙南へおろした。壠には30間おきに約5t(トン)の橋石、多いとき1,000t(トン)も動いた。</li> </ul>					
	石垣			「稲井町史による昭和30年度の用途と生産高」						
特記事項・補足説明など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治27年、「井内石石材合資会社」設立、首都東京の建設用材として出荷したといわれている。</li> <li>・墓石の商圏…独立加工業者(独立の石工職人)の場合</li> </ul>									
	1) 三浦健治郎の場合									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦前…主として県内の石巻・桃生・古川・三木本・石越(荒材(小口どめ)のままで馬車(1日40km)でもっていき、現地で加工…長手間取仕事)</li> <li>・販売方法…親類・友人などを介して行う。</li> <li>・戦後…横浜・群馬・北海道まで拡大(輸送力向上)</li> </ul>									
2) 宮本慶吾の場合										
<p>戦前…登米郡・豊里・宮戸・前谷地・岩手県大東町</p> <p>販売方法…注文先の世話人(信頼のおけする有力者…村の議員とか)を介して行う。こちらから一週間位、得意先の町や村におもむいて、世話人の家に宿泊し世話人を介して注文をとる。また世話人は地元の人から頼まれると葉書や手紙で連絡する。得意先は3代位続いている。川聞きの時など世話人を紹介して御馳走してやる。(現在は世話人割はなくなりつつある)</p> <p>・労働機械導入前の職人の賃金(昭和10年代)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日…1円50銭~2円(酒1升1円)</li> <li>・墓石の場合 (1人で1組) (1ヶ月) …5円~10円(戦後100万円 現在200万円)</li> <li>・年間…10組位…50円~100円</li> </ul>										

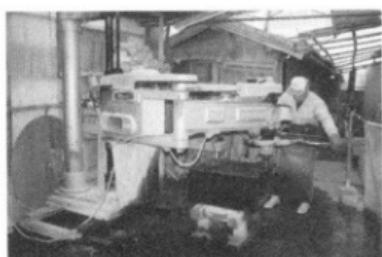
## ・石工 宮本慶吾の細工部屋 加工



・切削機と切削機  
(おおいがかけられている)

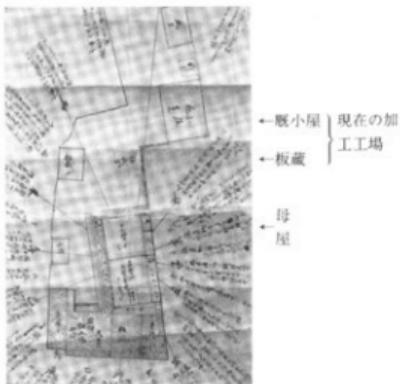


・亀井石材店（手前が母屋、奥が工場）



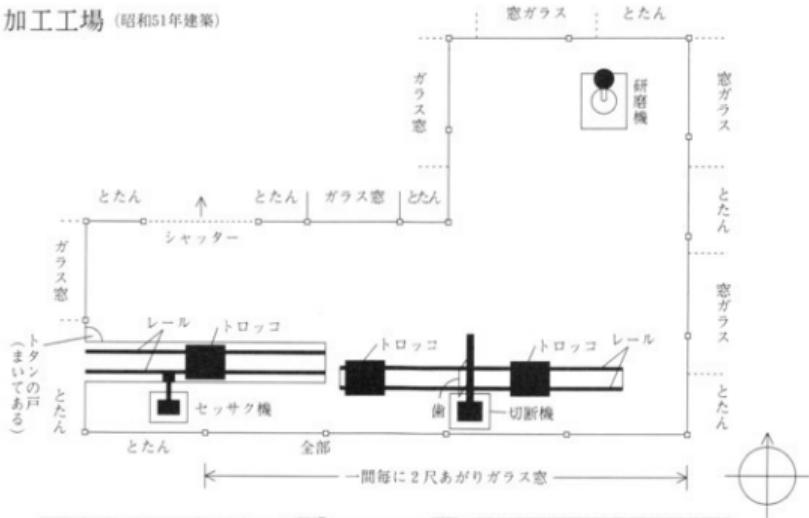
・研磨機（宮本慶吾の加工工場）

（天保15年仲秋中旬  
仙府 若生幸鼎賃）



↑ 石切細工場（上間）

## ・加工工場 (昭和51年建築)



## ・細工部屋（井内……戦前、熊治郎たてる）

## ●道具の製作

- ・ふいごで火をおこし

長さ = 3 尺

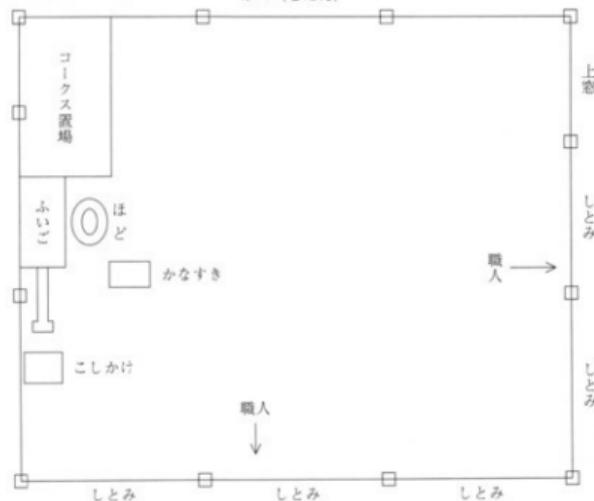
- ・ほど

径 = 1.5 尺

(ほどで毎朝、朝食前にノミの刃、タタキ、ビシヤ、字ホリなどの道具を焼く)

- ・かなしきで金物をたたく  
・焼入れをする

かべ（とたん）



- ・荒げずりの場合はいくらか道路に出る

(石の破へんがとぶから)

- ・仕上げの場合はなかに入る

(沢田広見山の細工部屋（昭和24建築）は

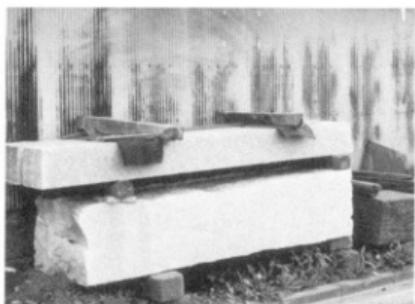
東側に一間のゲヤを出した、後は熊治郎細工部屋と同じ）

しとみ…（三段重ね  
作業時にははずす）



・細工部屋（沢田広見山…昭和24年熊治郎たてる）

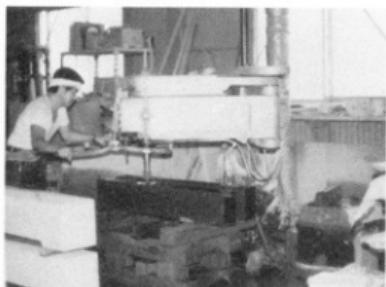
## 現代の作業工程（木村石材店）



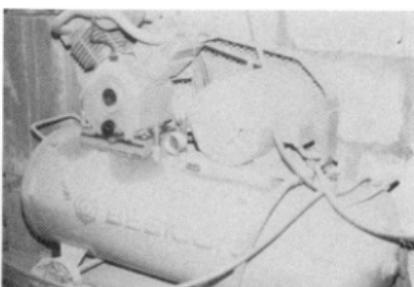
①石材



②石を切る（したごしらえ）



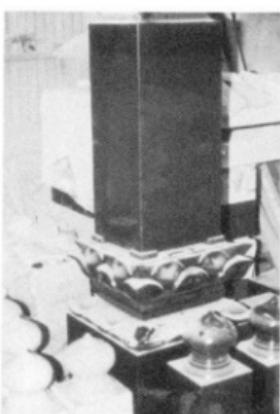
③みがき



④字彫り



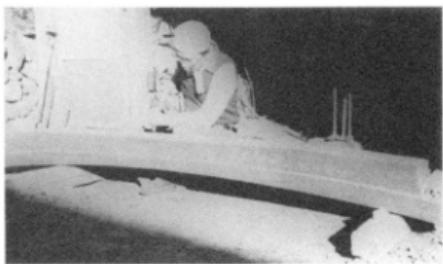
⑤穴を開ける



⑥完成

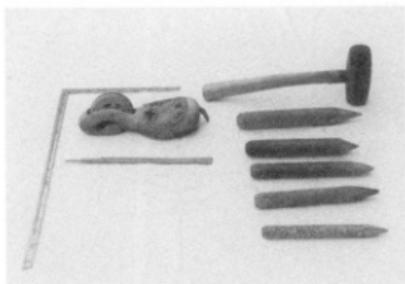


・タタキで島木を削る

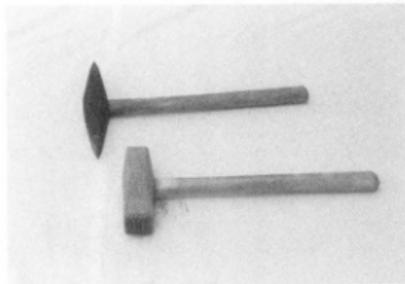


・ノミで島木を削る

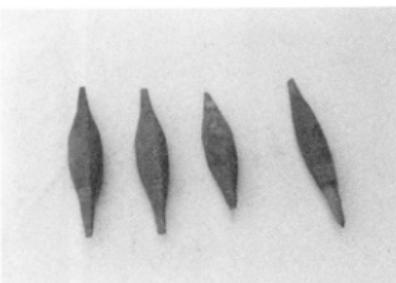
## 石切り用具



- 1 曲尺  
2 スミツボ  
3 スミサシ  
4 手鉤 (テヅツ)  
5  
6 タンガロイノミ  
7  
8 刃金ノミ  
9



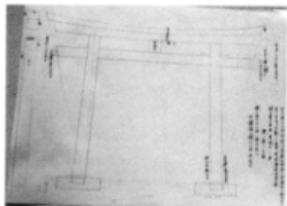
・タタキとビシヤ



- ・ノミの種類
- |                        |
|------------------------|
| 大へノミ (今は機械で<br>ほるからない) |
| ヘノミ (へったノミ)            |
| 中ベリ                    |
| サキノミ                   |

- 1  
2  
3  
4  
シヤッコ  
ジホリ

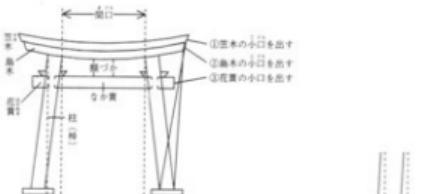
3	製作・加工の工程(細分の工程に留意)	具体的用具名	用具の使い方・変遷・個人的工夫など
島居の製作・加工の工程	1. ダンナ(山元)同志で契約を結ぶ 2. 職人を誰にたのむか決定する 3. たのまれた職人は作業に何人、必要であるか決める。 (3尺廻り(直径1尺の柱)の場合は5人) 4. 図面を引く 図面を引き、自分の頭に入れる		
5. 作業	1) 図面に基づいてナカズミを打つ 笠木、島木、なか貫、花貫の面をとる ①面にステズミを打つ ②タタキ(両刃)で削る ③スミを打つ ④ノミで削り、ビシヤで叩く 2) 柱にムシリ目(ノミ目)をつくる ①八角に切る ②角をとる ③ムシリ(ノミ打ち)をする 3) なか貫などのほぞ穴をはる	・曲尺、定規、スミツボ ・曲尺、定規、スミツボ ・タタキ ・曲尺、定規、スミツボ ・ノミ、手槌、ビシヤ ・ノミ	・柱のことを棹と言う
6. 石立て		・綱、さしかつぎ用棒、大棒(通し棒) 滑車、カグラサン	さしかつぎ(2、4人、6人、8人)の方法で運搬し、2キショ、3キショ(2、3本に組立てる)して滑車つけ石を綱で結びカグラサンで引っ張って立てる



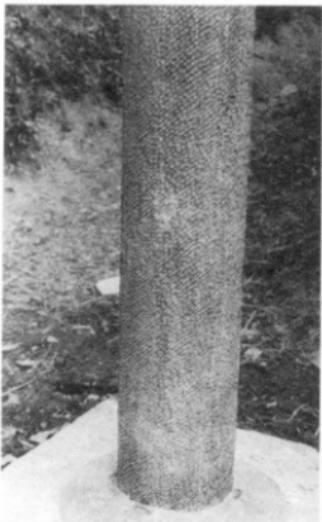
・3尺廻りの図面

・柱のノミ目

・鳥居の名称



柱(棹)…直径から円周を出す、 $1\text{尺} \times 3 = 3\text{尺}$ (3尺廻り)  
 ・開口の長さ  
 3尺×3=9尺  
 ・柱(棹)は開口から外へ半ころばし  
 ノミ目…下の方のノミ目打ちは上手な職人、上の方は見えないから下手な職人が打つ。



話者…三浦健治郎 (76才)

## 1) 字ほり（サオ石）

①最初ジホリでヤゲンボリ（薬研彫り）をする。



②次にシャッコ一本でまるみとふちどりをする。

③太い字ほどむずかしい。特にカーブはむずかしい。カタカナはほりやすいので碑文はカタカナが多い。

ひらがなはむずかしい。

④戦前は専門の字彫り職人が10人位いた。

6人～10人

70人～100人（石工職人）

⑤字ほりは常時仕事があるとは限らない。彼岸、盆の前に仕事が集中する。徹夜で仕事をする。

⑥字ほりは無駄がない、石屋の場合、石の悪いものは捨てる所以で無駄ができる。

## 2) 淳かし彫り

①上台は蓮華、中台は牡丹、唐獅子、龍。

②職人は技術に応じて1等、2等、3等の階級がある。彫刻は1等の名人級の人が多くたのまれる。



・山からの石材の運搬（「おとす」）

1) 1t位（以下）の石材は土車でおろした。



2) 1t以上の石材は大きなカナデコでコロをあげあげしコロの向きかえおろす。コロの木は太い椿かクヌギを用いたが金コロを用いカグラサン2基で引っぱっておろす（後者は上井内山）

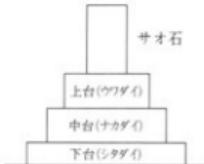
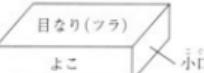
3) 石材をおろす道に石のコッパを敷き、石材の先にソリをもたせそのままおとす。大材の場合、轟音が山にこだまし壯觀である。下につくと「嵐がすんだ」とさけぶ。大材が無事に下まで達した時は、山取り職人、皆で酒をのむ。

（狼の渋山）

## ・石切り

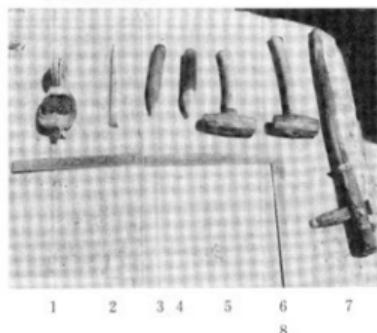
（タガネを用いる）



	製作・加工の工程(細分の工程に留意)	具体的用具名	用具の使い方・変遷・個人的工夫など
墓石製作 の工具 の用具	石切り(通称…石工) 1 石材の選択…各山を歩いて、自分の石を山元(「ダンナ」)か山取り職人にたのんでおく。		・墓石の名称
	2 寸法書きを山元にだし、たのむ。		
	3 運搬 ・自分で、山から2、3人の職人でコロを用いて運搬したり、山元(「ダンナ」)にたのんで石積み場まで運んでもらう。 ・石積み場から、馬車で細工部屋(工場)まで運ぶ。	・コロ、テコ ・馬車	
	4 加工(サオ石の場合) 1) スミ打ち ・注文に応じて、石の筋を見て寸法を出しスミを打つ	・曲尺、定規、スミツボ	
	2) 石切り ①荒どり ・小口、よこ、目なり(ツラ)の順序で削っていく。 ②仕上げ ・目なり(ツラ)、よこ、小口の順に仕上げていく。	・ノミ、手槌(「テヅチ」) (ノミは先が刃金からタンガロイに変わった…昭和30年頃、シャツコなども) ・タタキ(両刃) ・ビシャ	・山で荒どりする場合もある ・石の面の名称
	3) 磨き	・荒砥、中砥、オナガミ(二番砥) スズ消し(特殊なもの)仕上砥	
	4) ほりもの ・法名などの字をほる。	・ジホリ、シャッコ、コスリベラ	・主として女性の仕事で二人組で向かいあってみがく、専門の人が10人位いた。 ・字ほり……なかを字ほりで荒げずりし、シャッコでふちをとる。 ・右手にシャッコを持ち、左手の人さし指や中指にあててほる。

話者…三浦健治郎(76才)

## ・中割り用具



- |   |                       |
|---|-----------------------|
| 1 | スミツボ                  |
| 2 | スミサシ                  |
| 3 | ノミ (刃金)               |
| 4 |                       |
| 5 | 手槌 (テヅチ)              |
| 6 |                       |
| 7 | タガネ (『セメヤ』柄はウシコロバシの木) |
| 8 | 曲尺                    |

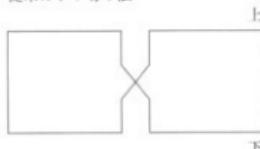
## ・ノコ式ドウ切り石材切断機



・昭和35年～45年頃、使用。この切断機の導入はドウ切り用として革命的な利便さを職人に与えた。

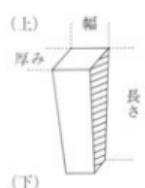
従来のドウ切りは「切り折るまいやんだなあ」の言葉が示すように職人2人で3日間かかり大変苦労した。

## ・従来のドウ切り法



上からノミではり裏返して下からノミではり  
切断する。

## ・セメ矢 (矢) の大きさ



## 普通

長さ…7寸  
幅(上)…2.5寸  
厚み…上1.5寸  
下0.7寸

## 小 (マメヤ)

長さ…1.5寸  
幅(上)…1.5寸  
厚み…上1.0寸  
下0.7寸

話者…宮本慶吾 (75才)・阿部初男 (83才)

## ●山どり用具



1            2            3            4            5            8            9            10            11            12            13            14

6            7

15

- |     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 1   | ゲンノウ                                |
| 2、3 | セメタガネ（ワケヤ）                          |
| 4、5 |                                     |
| 6、7 |                                     |
| 8   | ホゾノミ（矢口切り）                          |
| 9   |                                     |
| 10  | コメ（ツメ）棒（火薬効力を良くするため土（石のこな）などをつめる道具） |
| 11  |                                     |
| 12  |                                     |
| 13  | ハッパ棒                                |
| 14  |                                     |
| 15  | 曲 尺                                 |



・三本マングワ



・カナデコ

話者…阿部初男 (83才)



・山取り（ハッパをかけ、セメタガネ（ワケヤ）をきし、ゲンノウで叩き割る）



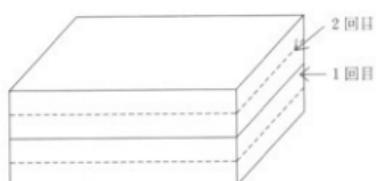
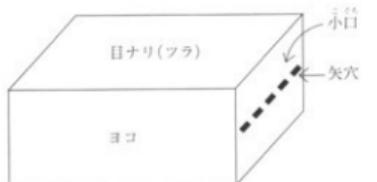
・中割り…①小口の目にそって、ノミと手槌（「テヅチ」）で叩き穴を開けていく。



②一人がダガネグチ（ヤアナ）にタガネ（セメヤ）をあて、他の人がゲンノウ（「ハゲノ」）で叩き割る  
(写真是工場前で割っていた)

・丁場（石切場）で山取りした石材を山で割る場合がある

・中割りの方法



①小口の目にそって、ノミと手槌（「テヅチ」）で叩き穴を開ける。

②タガネグチ（矢穴）にタガネ（矢）をあて、他の人がゲンノウ（「ハゲノ」）で叩き割る。

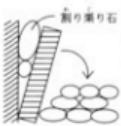
③厚み2尺の石材を中割りすると1尺のものが2枚となる。

④さらに1尺の石材を割ると5寸のものが2枚となる。合計4枚になる（注…2尺の石材から6寸のものを3枚とると、負け勝ちができる。石に無駄ができる）。

⑤石材の長さ10尺～20尺の場合は5つのヤアナ（矢穴）をあける。

注…明治10年代、野蒜薬港の突堤に使用された石材をみると大きな「矢穴」が残っている。

3	製作・加工の工程(細分の工程に留意)	具体的用具名	用具の使い方・変遷・個人的工夫など
製作・加工の工程・用具	山どり(通称…石切り) 1)「ジギリ」 ツルハシやマングワで砂利や木の根などをとり、モッコで運び表土を除く。	・ツルハシ ・三本マングワ ・モッコ	・モッコは二人でかつぐ。
	2) ハッパ棒で穴を開ける	・ハッパ棒 長さ…2尺・3尺・4尺・5尺・6尺 直徑…5分	・直徑5分のハッパ棒で最初1尺の深さに穴をほり次に5寸きざみの深さで穴をほりかけていく。4尺位の深さになると5寸きざみでなくなる。
			・ハッパ棒で掘っている場合、刃がかける場合がある。「かけ」をとらないと、いくら棒を入れても掘れない。竹または木の棒の先に粘土をつけてねばし吸いとる。
	3) コメ棒で火薬効力を良くするため土(石のこな)をつめる (鉄よりも真鍮の方が爆発しない)	・コメ棒	・上下に石の目の通りがよく、左右に枠りがあるため、例えば厚みが30cm、高さが2mで、長さが10mの石でも、端から真中5mのところに一本穴を開けて火薬をつめただけでボンと割れてしまう。(但し火薬の入れ量とつめ方の調節がうまくいった場合)。
	4)『ソウタテ』をしてハッパかける。		・縦に走る石の目(タテ目)を見分けるのには10年位かかる。現在は5・6人位しかいなくなった。50歳以下では皆無に近い。
			・大きい石の場合は同じ穴で3回位爆発させる花崗岩の石切場では考えられない。
	5) ハッパをかけ、ひびを入れても、下まで通っていない場合、セメタガネ(「ワケヤ」)をさし、ゲンノウで叩き割る。カナデコでひろげる。	・セメタガネ(ワケヤ) ・ゲンノウ	・割れ目に割り乗り石を入れ、するとだんだん割れて石がくずれる。
			・大石材の場合、どっと倒れるから倒れる向きに石のかけらのクッションを二箇所つくっておく。



話者…宮本慶吾・阿部初男

2	原 材 料 の 名 称	原 材 料 の 入 手 方 法・経 路 な ど	保 存 状 況 そ の 他
素 材 (主たる素材)	井内石 ・黒色粘板岩 ・縞灰色粘板岩 (頁岩ともいう。本を横にしたように一枚一枚の岩層が本の一頁のよう重なっている)	丁場(石切場) 元山(本山)……共有地 狼の沢山……国有地 上井内山(駅前)……私有地 昭和になって 濱山……市有地 瀧ノ口山……国有地 (丁場の位置は(2)の図面を参照)	・現在、石巻市内の墓石で井内石使用は一割弱で、アフリカ、インド、中国から輸入品が多い。 ・稲井石材商工業協同組合では中国、温州市から完成品を輸入。国内産より安価で提供できます。
素 材 (その他の)	みかけ石 花崗岩の俗称 ・黒みかけ ・白みかけ ・ごま状みかけ	昔 福島、関西方面 現在 中国、インド、韓国、 アフリカ	・神戸市東灘区の御影、 その背後の六甲山地から産する花崗石をその地名をとって御影石と称して有名。 →本御影と言う



・上井内山(駅前の山)の小口の筋(層)

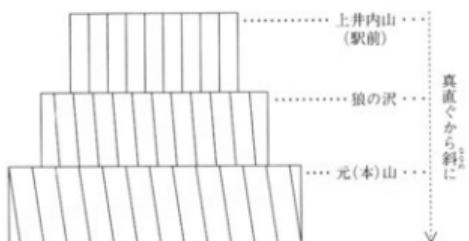


・丁場(石切場)の粘板岩層



・灰色粘板岩(上部の細い線は火薬の穴、破裂した跡が見える)

## 1) 各山の小口のすじ(筋)の相違



・山(山の層)によって割り方や道具(ノミの刃金)の加工(焼入れ)の仕方ちがえる。  
(つまり石に聞いて道具の加工、割り方をきめる)

・石に筋があまりないのは彫刻し易い(上井内山)。(特に目や鼻)。鳥井のカサなども斜めの筋があると曲がって見える。

話者…宮本慶吾(大正11年3月5日生)…井内字井内9の2  
阿部初男(大正3年8月31日生)…井内字井内

## 特記事項・補足説明など

## ●石工社会の階層（昭和13年頃）

①山元（山持ち）…「ダンナ」「ダンナドノ」と呼ばれ、山（丁場…採石所）を所有し、「おろしもと」（問屋）であり、石工職人（通い）と年季奉公人（弟子）とをかかえ、細工部屋のある店持ち石屋、居職を主とする親方層。

②「おろしもと」…主として県外に石材を販売する問屋を専門とする商人的階層。

③独立の石工職人…細工部屋を持ち、加工を専門とする。年季奉公人（弟子）をかかえて、「長手間取り」などをする出職を主とするが、居職もする階層。

④独立しない職人階層…山元の細工部屋に通って手間賃をもらう手間取り職人層（8割は借家）。

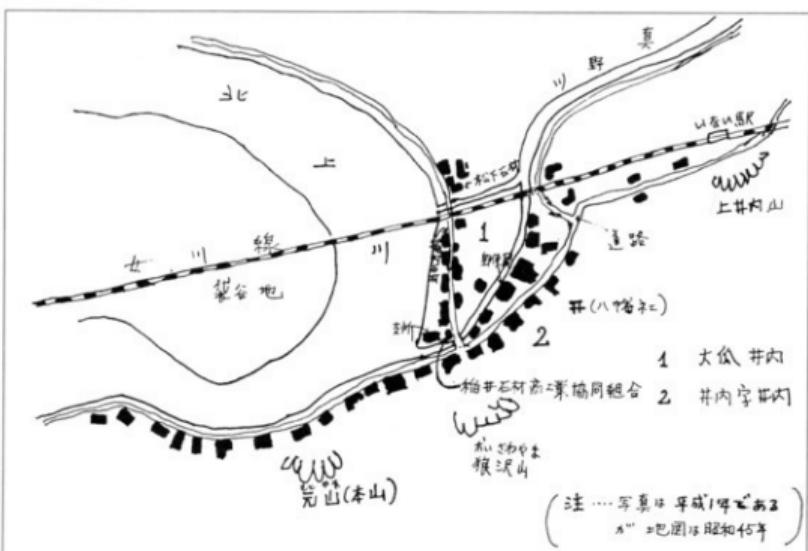
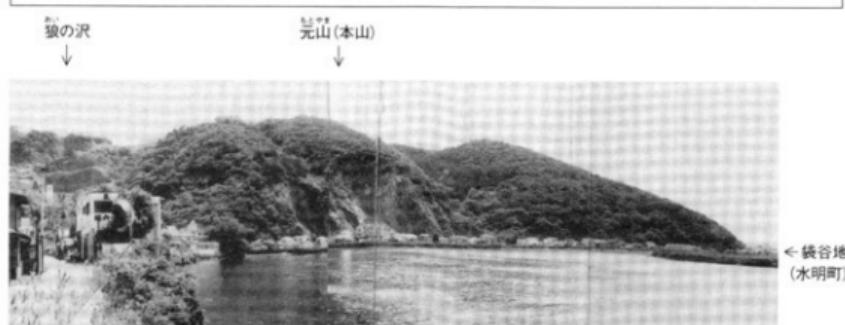
以上4階層に分類されるが、④階層は日給1円50銭で1ヶ月2・30円の収入であり、力仕事であるので手間賃の3割は酒代になり、しかも子供も多いので決してよい生活ではなかった。

そして石工職人の夢は独立して山持ちになることであった。

## ●石工職人（業者）の一番悪い事（信用がなくなる）

①納入日がおくれること（法事の日に墓石が立たなかった）

②傷のある石製品を出す事



# 平成八年度伝統的諸識調査報告書

石巻市文化財保護委員 鈴木 東行

## 井内の石工

調査期間	7月から 11月まで (平均週2回)	調査地	宮城県石巻市沢田字広見山40-4	職種(技術)名	石工
話者	三浦 健治郎 (76歳)	性別	男	生年	大正10年3月15日生
技術伝承者(従事者の呼称)	(通称) 石工				
1	地域的特色				技術の伝播(系譜関係を含む)・歴史的経緯
総観	<p>井内は石巻の北方2キロ、北上川と真野川の合流地点にあり、牧山の北側山裾に位置し、記念碑として全国に知れわたっている名石材仙台石=井内石(稲井石)を産する。延宝4年(1626年)の吉野先帝菩提碑(石巻市多福院)が古い井内石だといわれている。</p> <p>元和・寛永年間(17C前半)、川村兵衛重吉が北上川改修した際、大岩盤(本山(元山))に突き当たり、この岩層(「井内石」)を切り崩して北上川の護岸用の石垣にしたといわれている。これ以後、井内石が土木建築、神社用として良材であることがわかった。仙台藩は井内石山を藩の直轄地に指定し、藩の公用及び免許者(蓬上金上納)以外の採石を堅く禁止した。これが「お留山」であり、石山を守りと称する役人に管理された。天和3年(1683年)の仙台市の龜岡八幡神社鳥居(県文化財指定)が井内石である。</p> <p>石は黒色・灰色の粘板岩(「ヘゲ石」)で割れ易が真直ぐで加工しやすく、大材がとりやすいので記念碑として、また、風雨にさらされても風化しない堅牢さと彈力性に富んでいたので橋石・墓石・敷石・鳥居・土台石・石垣に用いられている。明治10年代、北上運河・野蒜港突堤・東名運河の建設に膨大、そして巨大な石材が轡(平田船)によって15-60艘で運搬された。明治27年「井内石材合資会社」設立、百余の部藩民あてて採石加工工事に従事した。当時の運搬船は帆と荷馬車であった不便な事が多かったが、女川線(昭和14年)の開通と同時に、採石現場に近い橋井駅が開設されたので、積出しの不便も一掃された。</p> <p>現在、井内石の使用は1割弱でアフリカ、インド、中国からの輸入材が大半をしめ、安価な完成品を中国温州から輸入できる状態である。また、機械化が進み、伝統的石工職人は減少し、あと10年もたてば井内石(稻井石)の存在そのものが消えてしまう趨勢にある。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>稲井町史によれば石巻地方には鎌倉前後から南北朝時代前後の古碑が見られるが、それらの碑体、彫字は極めて粗削りな篆研彫りの形式である。文化文政の頃(19Cのはじめ)先進地、三河国岡崎城下から石匠を招聘、加工技術の指導をさせた。以後井内の石碑類は全く面目を一新したと言う。</li> <li>石工、三浦健治郎の系譜。</li> </ul>
~調査地・職種~ 〔技術〕等	<p>1代目…熊治郎、2代目…健治郎、3代目…信夫。父の熊治郎は鹿又の出身で12才の時、大瓜井の後藤元作に従弟奉公、21才で弟子上がりし職人となる。角物は勿論、蓮華、牡丹、唐獅子の彫り物にすぐれたうでを発揮した。石屋のダンナにたのまれ渡り歩いた。30才で小さい細工部屋をもち独立した。妻の家や友人の手するで「長手間仕事」にでかけた。誰ももれない鹿又の八幡様の鳥井の注文をうけた。</p> <p>2代目、健治郎は14才で父の弟子になり、16才で角物、17才、18才で蓮華、牡丹、龍の彫り物を手掛けた。昭和24年、現在地に細工部屋をたて、昭和51年、加工工場を建設した。昭和56年、県から技能者賞、市から文化功労賞を受けた。3代目信夫は彫刻の部で河北展に入選している。</p>				
製作・加工の概要	<p>・山どり(石の採掘…通称は石切り)</p> <p>①ジギリ(表土をとり除く)</p> <p>②ハッパ棒で穴をあける</p> <p>③コメ棒で火薬効力を良くするため土(石のこな)をつめる</p> <p>④ソウタテをしてハッパをかける</p> <p>⑤ハッパをかけ、下まで通らない場合、セメヤをさし、ゲンノウで叩き削る</p>				<p>・石切り(通称…石工)</p> <p>幕石(「サオ」の場合)</p> <p>①スミ打ち</p> <p>②石切り</p> <p>I 荒どり</p> <p>II 仕上げ</p> <p>③磨き</p> <p>④字彫り</p>

## 石巻市文化財だより(第27号)

平成10年3月26日 印刷  
平成10年3月31日 発行

発行: 石巻市教育委員会  
石巻市日和が丘一丁目1番1号  
電話 (0225) 95-1111 内線345

印刷: 株式会社七星社  
石巻市南光町二丁目220番の1  
電話 (0225) 22-3101

